



NIE 教育に新聞を

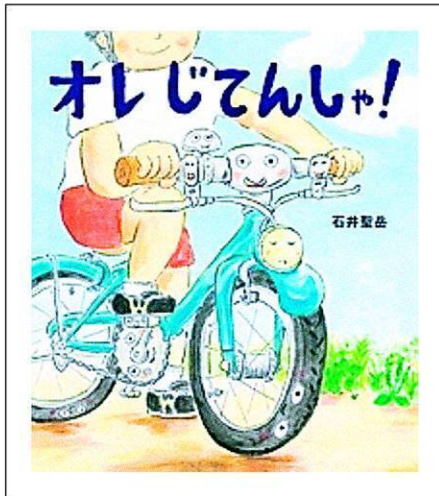
4

小学1・2年生向け

オレじてんしゃ！

石井聖岳作

「オレ じてんしゃ！ これ オレのチェーン！ これ オレのタイヤ！」「みんなで ちからをあわせて はしるぜー!!」。この絵本の主人公は、走るのが大好きな自転車です。タイヤやブレーキなどの部品たちが元気におしゃべりしながら、自転車を前に進めていきます。乗り手の男の子がペダルをこぐと、その力がリレーのようにギアやチェーンへ伝わり、タイヤが回って走り出します。暗いトンネルでは、眠っていたライトが目を開き、道を照らします。おや？ タイヤから悲鳴が聞こえます。「わー タイヤがパンクしてるー!」。自転車の仕組みやサイクリングの魅力が、楽しく伝わる絵本です。



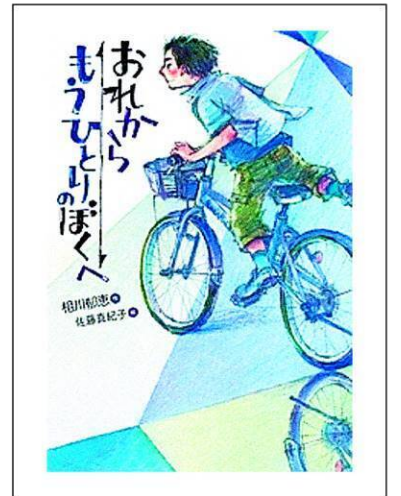
(ほるぷ出版 1540円)

小学3・4年生向け

おれからもうひとりのぼくへ

相川郁恵作 佐藤真紀子絵

智が自転車で公園へ向かっていると、突然、自分そっくりの男の子が自転車に乗って目の前に現れます。ぶつかる、と思った瞬間、その姿は消えていました。その後、智は周囲に強い違和感を覚えます。親友の翔平とまさとはよそよそしく、母の髪形や服装、口調までもがいつもと違っていました。自分の部屋も様変わりし、サッカー選手のポスターは消え、見慣れない本が並んでいます。学校へ行くと、教室の雰囲気も一変し、周囲の誰もが智の態度に戸惑っていました。混乱した智は翔平とまさとに相談しますが、「親友といえるほどの仲ではない」「おとなしい智が急に活発になった」と言われ、さらに驚きます。いったい、智の身に何が起こったのでしょうか。



(岩崎書店 1320円)

図書館へ



自転車月間の5月に

5月は新緑が美しく、外を散歩したり走ったりするのが気持ちよい季節です。自転車に乗って出かける人の姿も、よく見かけます。5月は「自転車月間」と定められています。そこで今回は、自転車が登場する本をご紹介します。

(山梨県立図書館 志村彩夏)

＝毎月第2週に掲載します

小学5・6年生向け

ピワイチ！

横山充男作 よこやまようへい絵

斗馬は滋賀県に住む小学6年生です。新年度の初日、クラスで春休みの思い出を1人ずつ発表することになりました。斗馬が思いを寄せる結花は、「ピワイチ」に挑戦した体験を話しました。「ピワイチ」とは、自転車で琵琶湖を1周することです。一方、斗馬は「何もしなかったです」と答え、クラスメートに笑われてしまいました。悔しさと、結花にいいところを見せたいという思いから、斗馬はピワイチへの挑戦を決意します。親友の一太を誘ってピワイチのイベントに申し込み、インストラクターの遠藤さんやサイクルショップの西原さんのサポートのもと、同じ小学生の参加者である彌音、みすず、まこととともに、琵琶湖1周完全走破を目指します。



(文研出版 1430円)

中学生向け

ずかん自転車

森下昌市郎著 自転車文化センター監修

皆さんは、自転車がどのように誕生したか知っていますか。その始まりは1817年、ドイツのドライス男爵が発明した「歩行機械」と呼ばれる乗り物だといわれています。当時はペダルがなく、足で地面を蹴って進む仕組みだったため、靴がすり減りやすく、広く普及しませんでした。その後、安全で快適に乗れるよう改良を重ねられ、88年に空気タイヤが発明されたことで、スピードや乗り心地が大きく向上し、自転車は世界中に広まっていきました。現在、自転車はサイクリングなどのレジャーやスポーツなど、さまざまな用途に活用され、種類も豊富です。この本では、自転車の歴史のほか、仕組みや種類、競技について、写真や図を用いて詳しく紹介しています。



(技術評論社 2948円)